

平成27年度第5回「墨田区子ども・子育て会議」 「乳幼児ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年1月13日（水）午後6時30分～8時15分
会場：すみだ女性センター ホール

次第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 子育てネットワークづくりについて	資料1～4
(2) その他	

3 閉会

配布資料

- 資料1 子育て応援団（仮称）意見交換会 平成27年度第1回子育て支援ネットワーク化会議
- 資料2 平成27年度第1回子育て支援ネットワーク化会議記録
- 資料3 子育てひろば地域相談ネットワーク事業（ひろばねっと）イメージ図
子育て家庭をとりまく地域ネットワークのイメージ図
- 資料4 要保護児童対策地域協議会とは
（児童虐待予防のための発見・対応マニュアル（関係機関用）〔墨田区〕より抜粋）

出席者（敬称略）

委員

- 長田 朋久（横川さくら保育園長）
- 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
- 西島 由美（にしじま小児科院長）
- 賀川 祐二（NPO法人 病児保育を作る会代表理事）
- 木村 律子（公募）
- 荘司 美幸（公募）
- 近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
- 青塚 史子（八広保育園長）

< 欠席委員 >

- 杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
- 伊丹 桂（文花子育てひろば施設長）

本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
 新木 真理子（ひまわり保育園施設長）
 貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
 小林 佳香（公募）
 佐藤 摩耶子（公募）
 陳 晨（公募）
 関 舞衣子（公募）

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

石井 秀和（子ども・子育て支援担当部長） 小倉 孝弘（子育て支援課長） 杉崎 和洋（子ども課長） 村田 里美（子育て支援総合センター館長）

事務局出席者（検討チーム含む）

子育て支援総合センター 岩崎、子育て支援課 田村・酒井

事務局（株）地域総合計画研究所

大鹿

1 開会

委員	これより、乳幼児ワーキンググループ（以下、WG）を始める。
----	-------------------------------

2 議題

(1) 子育てネットワークづくりについて

委員	乳幼児 WG では、アプリ等を使って親同士が自発的なネットワークがつかれるように知恵を出したい。要保護児童対策地域協議会やネットワークを不要とする保護者は対象ではない。こういう活動をやったら子育てが楽しくなるんじゃないかと思っている積極的な保護者が、自発的なグループでつながって、何か相乗効果を発揮できるのではなかということを考えている。
事務局	「（仮称）すみだ子育てつながり〜れ」も、障害児の親のグループなども集まっているが、それぞれがつながるのが難しい。SNS の活用は、公的機関がつながれないということなどが課題として挙げられた。
委員	グループワークでアイデアを出し合いたい。
委員	具体的な仕掛けのアイデアを出し合うのか。
委員	区からの発表は、積極的な人を区がひっぱりあげるイメージだが、私のイメージは保護者が支援からこぼれてしまわないようにしていく必要性を感じている。
委員	課題、ねらい、イメージの共有から始めてもいいし、アイデアを出してもいい。まずはネットワークの必要性の共有から始める必要があるかも知れない。思っているネットワークをみなさんで出し合ってもいい。区主導というよりは、自発的なネットワークができるとうい。

A グループ

(長田委員、賀川委員、木村委員、近藤委員、石井子ども・子育て支援担当部長、岩崎子育て支援総合センター主査)

- ・活動に関わりたくない保護者はいる。
- ・幼稚園では、何か親が関わる役割をつくったりしている。入園前から主体的に活動できるといい。
- ・幼稚園と保育園では親の状況も違う。
- ・要保護児童は区が対応した方がよく、今回のネットワークの対象ではない。
- ・ネットワークづくりが負担になってもいけない。親にもモチベーションがないと続かない。
- ・日曜日などに、保育園の親が出かけるきっかけになるようなイベントがあるといいのではないか。
- ・子育て家庭をお客様扱いにせず、主体になれるようにする必要があるのではないか。
- ・区は広いので、出かけやすいようにエリアを分けてネットワークをつくった方がいいのではないか。ママ友の集まりを拡大していくようなイメージ。
- ・何かを主体的にやるとなると、役割分担が負担になるが、行政が場所を提供し、鍵を渡して使ってもらい、自分たちで片付けて帰るようなことでもいいのではないか。町会会館を利用するのもいい。
- ・ラジオ体操のような取り組みがあればいいのではないか。
- ・何か主体的な活動をしたとして、間違った情報を提供したときに、「どうしてくれるんだ。」となると大変になってしまうので、そこを何かルールづくりで責められないような工夫が必要かも知れない。関わりすぎるとよくない。
- ・ひろばに来ない人が、外に出る仕掛けが必要なのではないか。
- ・悩み相談をきっかけにするのはどうか。
- ・近い場所であるといい。
- ・ラジオ体操の後に、ゴミ拾って帰るためにゴミ袋を手渡す。拾うかどうかは自由とするなど、簡単なことが広がっていくというような活動などどうか。ちょっとしたきっかけを散りばめたい。
- ・組織の維持は難しい。単発のきっかけづくりの方がよいのではないか。
- ・育休中は、児童館やひろばに行っていた親が、仕事に復帰すると忙しくて行けなくなってしまう。
- ・子どもに行きたいと言わせられれば、そのつながりは大成功であり、親は積極的に行く。
- ・幼稚園の園庭解放が人気である。安全だし、同年代の子が集まるので情報交換になる。子どもが行きたがる。0～3歳を対象に午前中週1回開催している。定着すると子どもも行きたがる。知らない親もいるので、子育てアプリで知らせた方がよい。幼稚園情報も入れてほしい。
- ・情報提供が一番必要。
- ・子どもが赤ちゃんのうちには外にあまり出ず、つながりができにくい。幼稚園に入園して始めてつながりができる。
- ・携帯で連絡するような関係ではなく、顔と顔を合わせる仕組みが大事だろう。
- ・やさしいまち宣言や家庭の日などで色々やっているが、乳幼児対象のイベントは少ない。何か定期的に集まるような活用ができないだろうか。
- ・おいしい食べ物で出かける要因になるのではないか。目黒のサンマなどいいのではないか。もちつきはノロウィルスの影響で保育園ではできなくなってしまった。
- ・受け手の気持ちから抜けないと続かない。年5回のイベントは重くなる。年2回くらいがよい。
- ・子どもの数が多いと心配ないが、子どもが1, 2人の家庭を意識してつなげる必要がある。
- ・転入する人も多いなかで、5～6人友達ができるような、色々なきっかけが色々な場所でされているのがよい。
- ・年3, 4回、全保育園、幼稚園、ひろば、児童館で2時間何か同時開催してはどうか。

B グループ

(高嶋委員、西島委員、荘司委員、青塚委員、小倉子育て支援課長、杉崎子ども課長、村田子育て支援総合センター館長)

- ・墨田区に子育て支援団体は少ない。
- ・マンションで暮らしているためにつながりにくいという話を聞く。
- ・ここで話すのは、保護者同士のネットワークだが、孤立しそうな保護者を見つける、網を張る必要があるのではないか。フィンランドのネウボラは、担当者が決められるというが、保護者と相性が合わなかったらどうするのかと思う。もっとゆるやかな関係がいいのではないか。例えば、保育園の先生を増やして、園児以外の人に来やすいように。(安心ステーションなど)
- ・ひろばやイベント等に出席する人は問題ない。それ以外の人を見つけるのは難しい。
- ・どの層に何が必要かということ、それぞれ検討してはどうか。
- ・保育園を見学に来る人の中には、いろいろと外出している人もいるが、そういうところに行きたいけれども、噛みついたりするのが怖くて行けないという保護者もいる。
- ・保健センターで、新生児の全戸訪問をやっている。乳幼児健診では気になる母子の報告は上がってきている。
- ・墨田区の保健センターは、過度に保護者を心配させるような対応があるが、「そうだね、心配ないよ。」って言うだけでいい。
- ・それは保育士の方がいいのではないか。
- ・縦割りでは難しいところがあるが、それを何とかした方がいい。
- ・医師も保健師も個人の能力にばらつきはある。
- ・外に出てこない、リスクを抱えていそうな保護者には、保育士ではなく、子育て経験者などが対応するのがよいのではないか。
- ・近い場所にある、外から見て入りやすいなど、場の工夫が必要ではないか。児童館は入りにくい。
- ・安心ステーションで何回か顔を合わせると、友達にはなる。それをサークルにするなど、組織化するのには負担に思う。保育園でも父母会がない園が半分位ある。父母会を立ち上げようとした人がいても、ハードルがあって立ち消えた例もある。メールやラインだけでなく、集まって何かをする魅力を伝えていかななくてはいけない。
- ・食べる、買い物する場所は最低限、利用している場所はある。そこに協力を得ることを考えてはどうか。
- ・これから保育園をつくるなら、そこに集まる場所などもつくといいのではないか。
- ・月に1度はお母さんが癒される日として、児童館で子どもを預かってママだけが何かイベントに参加するなど、やるといい。
- ・民間が居場所をつくりたいという話があり、何らかの行政からの支援により民間のひろば的なものが広がっていくとよい。
- ・次世代育成支援行動計画で、子育て支援総合センター、ひろば、児童館を子育て支援拠点と位置付け利用者支援を行うこととしているため、この計画との整合も取った方がよいのではないか。
- ・元園長先生だった方などが肩書きなしで、熱を出したら冷やしたらいい、子どもが友達に手を上げたら手を掴むだけでいいなど、おせっかいなアドバイスができるといい。
- ・おせっかい力の活かし方講座などと題して、ちょっとした子育てのアドバイスができる人の背中を押せるといい。ベビーカーで困っている人を助けたいと思った時に、どう声をかけたらいいのかなど。毎回講師が変わって、西島先生や元園長先生などが行う。

- ・お母さんが癒される日となったら、区内色々なところで、お母さんの荷物を持ってあげましょーと言ってあげるとか。旗を立てるとか。ムードづくりが必要。お父さんの日も必要なので、25日の家庭の日を使う。
- ・以前、すみだガバナンスリーダー養成講座をやって、3年開催し、その参加者が子育て支援団体のメンバーになっている。全8回で、区の取り組みを知ったり、先進事例を学んだりした後、事業計画を作成して、今後、私はこれをしたい！という宣言をした。また実施するとよい。

講評

A グループの発表	<p>人が集まるには楽しい時間、子どもが行きたいと思えることが必要。</p> <p>定期的に、月に1回開催するのも保護者の負担になるかもしれないということで、年2,3回程度でどうか。</p> <p>幼稚園の園庭解放があり、それを知らない人もおり、すみだ子育てアプリで発信してはどうか。そのゆるい集まりの中で友達ができるといい。</p> <p>すみだ家庭の日(25日)もつなげていけるといい。</p>
B グループの発表	<p>ネットワークとは、支援する人ではなく、当事者のネットワークだよ。ネットワークは必要なの？ネットワークって何？という話になった。</p> <p>ひろばなど外にいける人ではなく、行けない・行かない層をどうしたらいいのか。</p> <p>外に出かけるきっかけをどうつくったらいいか。最低限、必要な行動としては、スーパーなどには行くはずであり、そのときに何か目に留まるものがあればいい。しかし、それでも足りないかもしれない。そこにおせっかいな人が声をかけられるといい。町中にいるはずだ。</p> <p>毎月10日はお母さんがケアされる日、25日の家庭の日はお父さんがケアされる日として、そのときには町中が「お母さん、お父さんがケアされる日よ！」と声かけられるようなおせっかいな人。それも、ドアを開けて家にずかずか入っていく人ではなく、スマートなおせっかい。そのスマートなおせっかいをする人を発掘する講座ができればいい。</p> <p>場所もたくさん必要で、民間のひろばに区が補助するなどできたらいい。ゆるやかな網ができるといい。</p>
委員	<p>色々な意見がたくさん出た。実現できるかは課題があるが、このように話し合うことに意味があると思う。こういう、考える機会や場が広がると、みんなが同じ方向を見られるといい。</p> <p>おせっかいな人が昔はいたので、それがなくなると求めるが、今の子どもたちはおせっかいな人知らないの、おせっかいな人をどう受け止めるのだろうか。</p> <p>今後の乳幼児ワーキングで何かを具体化できるようにしていきたい。一歩進むことを次回検討したい。</p>

(2)その他

委員	<p>協同的学びプロジェクトにおいて、1月20日(火)と28日(木)に公開保育を行う。その報告を次回の1月28日(木)の親会議で行う。また、4園の合同発表会を2月29日(月)リバーサイドホールで行う。</p>
----	--

以上